

第3学年 音楽科学習指導案

日時 7月4日(火) 第5校時
学級 第3学年1組 36名
指導者 稲津 裕 弥子

1 題材名 リコーダーとなかよしになろう

2 目 標

友達と音を聴き合いながら、やさしい息づかいで演奏する。

3 題材設定の意図

本題材は、学習指導要領、第3学年および第4学年の目標と内容である「A表現(2)ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」に関わる学習である。

リコーダーは容易に音を出すことができるが、本来もっている美しい音色で演奏することは大変難しい。そこで、リコーダー曲を鑑賞したり教師の範奏を聴いたりすることでリコーダーの音色に親しみ、こんな感じの音をこんな感じで演奏してみたいと思うイメージをもたせるようにしたい。そのために運指やリズムがやさしい曲を選曲し、自分の音を聴きながら息の使い方や息の強さを工夫し、友達と音を聴き合うことで自分の課題に気づき、演奏に生かせるようにしていきたい。

〈主教材について〉

- ・「たこたこあがれ」は旋律が容易で覚えやすい曲である。速度がゆっくりなので次の運指を考える余裕がもてる。わらべうたでなめらかな旋律の流れに合った息の使い方を工夫しながら演奏できる。また、調を変え一音下げて演奏すると「ソ」の運指も覚えられるので教材として取り上げた。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(音楽の目標及び研究主題より)

【心】音楽の特徴を感じ、思いをもって表現できる子
【心】互いのよさを認め合い、友達と協力して活動できる子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】音楽の特徴を感じ、思いをもって表現できるようにするために、

○教材を目標に適した曲にする。

- ・ゆったりとした速度でリズムもやさしい曲を選曲し、息の使い方をイメージしやすいようにする。

○基礎的な技能を定着させる。

- ・リコーダーに必要な基礎的・基本的な技能を身に付けるために、ポイントを掲示し意識をもたせる。

【心】互いのよさを認め合い、友達と協力して活動できるようにするために、

○互いの考えを共有する場を設定する。

- ・感じたことや気付いたことを発表する場を設ける。
- ・演奏する曲から感じたことを発表したり曲名を考えたりして掲示し、思いを共有する。

○ペアや少人数での場を設定し、学習形態を工夫する。

- ・人間関係を考慮したペアを担任と相談しながらつくる。
- ・互いの演奏を聴く時は、「聴くポイント」を絞り、課題がわかりやすいようにする。

5 本時の学習 (5 / 6 時間)

(1) ねらい

友達と音を合わせながら、やさしい息づかいで演奏する。

【思考力・判断力・表現力】 主体性 多様な考え 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり

(2) 展開

主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ◆評価
<p>1 学習の雰囲気をつくる。</p> <p>2 前時までの復習をする。 「シ」の一音でできている「ちょっと待ってね」を演奏する。</p> <p>3 「ラ」の一音でできている「シロロリン」を演奏する。</p>	<p>◇友達と楽しく学習する雰囲気をつくるために、既習曲やリクエスト曲を歌う。</p> <p>◇音の長さを数える時は音が乱れないように、頭を振るのではなく心の中で数えるようにする。</p> <p>◇やさしい息の使い方をイメージできるように言葉掛けをする。「シャボン玉を膨らますように」「あたたかい息」</p>
<p>4 本時のめあてを知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">やさしい息づかいで えんそうしよう</p>	
<p>5 「たこたこあがれ」を全員で演奏する。</p> <p>(1) 階名唱</p> <p>(2) 「ル」で歌う。</p> <p>(3) 「ル」を無声音で運指をしながら歌う。</p> <p>(4) リコーダーで演奏する。</p>	<p>◇歌いながら旋律の流れや音高やリズムを覚え、曲の感じをつかませる。</p> <p>◇リコーダーで演奏した時に、舌の動きをイメージできるように歌う。</p> <p>◇運指がなめらかに動くように、手の甲や指に余分な力をいれないように言葉掛けをする。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">6 「たこたこあがれ」を小集団(2人)で演奏し合い、よさや課題を伝え合う。</p> <p>聴き合う時のポイント</p> <p>①出だしの音が大きくなっていないか。</p> <p>②同じ息の強さで演奏できているか。</p> <p>③フーフーと一つずつ息を入れていないか。(ほっぺたがふくらんでいないか)</p>	<p>◇目標とする音がわかるように教師が範奏し、同じ音を目指するように声掛けをする。</p> <p>◇聴くポイントを「息の使い方」に絞って聴く。</p> <p>①出だしの音が強く目立っていないか。</p> <p>②息の強さがそろわず、音がバラバラに聴こえないか。</p> <p>③タンギングをつかった息の使い方をしているか。</p> <p>◇ゆっくり丁寧に演奏し、音をよく聴くようにさせる。</p>
<p>7 友達と聴き合いながら息の使い方で気付いたことを発表する。</p>	<p>◇今後の目標につながるように励ます。</p>
<p>8 本時で共有した息の柔らかさを意識して全員で演奏する。</p>	<p>◆友達の音を聴きながら、自分の音を合わせて演奏している</p> <p style="text-align: right;">【ウー③技 発言 演奏の聴取】</p>

題材の評価規準 (3-1 音楽)

	(ア) 音楽への関心・意欲・態度	(イ) 音楽表現の創意工夫	(ウ) 音楽表現の技能
題材の評価規準	・リコーダーの音色に興味・関心をもち、学習に取り組んでいる。	① 息の使い方や息の強さに気を付けて、演奏の仕方を工夫している。 ② なめらかな旋律の流れに合った息の使い方を工夫し、どのように演奏したらいいのか自分の思いや願いをもっている。	① 楽器の音色に気を付けてリコーダーを演奏している。 ② なめらかな旋律の流れに合った息の使い方や演奏している ③ 友達の音を聴きながら、自分の音を合わせて演奏している。

題材の指導計画と評価基準

	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価基準
1	○リコーダーの演奏を聴き、リコーダーに対する関心をもつ。 ・「小鳥のために」を聴き、曲を聴いて気付いたことを発表する。 ○思い思いにリコーダーの音を出してみる。 ・強い 弱い 長い 短い など、いろいろな音を出してみる。 ○「シ」の音のささえ方を知る。	◇音色や音の動きに集中して聴き、小鳥の鳴き声や想像させる軽やかな音色から様々な表現ができることに気付かせる。 ◇どうしたら音が出るかを試すことで、楽器への関心を高めるようにする。いろいろな息の送り方を試し、音が変化することに気付かせる。 ◆リコーダーの音色に興味・関心をもち、学習に取り組んでいる。 [アー関 発表内容、行動観察]
2	○前時の「シ」の音のささえ方を確認し、リレー奏を行う。 ・息づかいを工夫し、「シ」の音をつなげていく。 ○「ちょっとまってね」を階名唱やリズム唱をして曲の感じをつかむ。 ・「ちょっとまってね」旋律の流れを楽譜で確認し、曲のイメージをつかむ。 ○無理のない速度で「ちょっとまってね」を演奏する。	◇運指を確認できるように、小集団（二人組）で確認させる。 ◇教師の範奏や音色を聴き、適切な息の強さをまねるように声をかける。 ◇旋律の流れや伴奏から曲の感じをつかみ、どのような息の強さで演奏したらよいか考えさせる。 ◆息の使い方や息の強さに気を付けて、演奏の仕方を工夫している。 [イ①創 演奏の聴取]
3	○「ラ」の音のささえ方を知る。 ○「シロロリン」の旋律を「ル」で歌う。 ・タンギングを使った息の使い方を知る。	◇なめらかな旋律を感じながら、息の使い方を工夫するよう声をかける。 ◇音の出だしと音の終わり タンギングを意識しながら演奏させる。

	<p>○「シロロリン」 タンギングを使った息の使い方では伴奏に合わせて演奏する。</p>	<p>◇伴奏を聴きながら、ゆっくり演奏させる。</p> <p>◆楽器の音色に気を付けてリコーダーを演奏している。</p> <p>[ウ①技 行動観察]</p>
4	<p>○「シ」「ラ」の音を組み合わせ、教師のリズムをまねてリズム唱をする。</p> <p>○「たこたこあがれ」の旋律を覚える。</p> <p>・階名唱をしながら運指を覚える。</p> <p>○「たこたこあがれ」を小集団（二人組）で階名唱とリコーダーに分かれて練習する。</p>	<p>◇「シ」と「ラ」の運指がなめらかに行えるように、歌いながら練習させる。</p> <p>◇なめらかに運指ができるように、指や手に余分な力が入っていないか、互いに見合っ練習をさせる。</p> <p>◆なめらかな旋律の流れに合った息の使い方演奏している。</p> <p>[ウ②技 演奏聴取]</p>
5 本時	<p>○「たこたこあがれ」を小集団（2人組）で演奏し合い、よさや課題を伝え合う。聴き合うポイントをもとにアドバイスし合う。</p> <p>○友達と聴き合い息の使い方気付いたことを発表しあう。</p> <p>○気付いたことを生かして全員で演奏する。</p>	<p>◇聴き合う時のポイントを「息の使い方」に絞って聴かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出だしの音が目立って大きくなっていないか ・同じ息の強さで演奏されているか ・音か一つ一つ切れずなめらかに聴こえるか <p>◇友達からのアドバイスや気付いたことを、自分の表現につなげるようにする。</p> <p>◆友達の音を聴きながら、自分の音を合わせて演奏している。</p> <p>[ウ③技 演奏の聴取]</p>
6	<p>○なめらかな旋律の特徴を生かして「たこたこあがれ」を演奏する。</p> <p>・息の強さや舌の使い方、フレーズに気を付けて演奏する。</p> <p>○少人数（4人程度）のグループをつくり、演奏を聴き合う。</p> <p>○工夫したことを生かして、まとめの演奏をする。</p>	<p>◇美しい音色のイメージをもちながら、リコーダーを演奏させる。</p> <p>◇無理のない速度でいねいに演奏させる。</p> <p>◆なめらかな旋律の流れに合った息の使い方を工夫し、どのように演奏したらいいのか自分の思いや願いをもっている。</p> <p>[イ②創 演奏の聴取]</p>

第3学年 国語科学習指導案

日 時 7月4日(火) 第6校時
学 級 第3学年2組 36名
指導者 富田 七海

1 単元名 まとまりをとらえて読もう
教材名 「こまを楽しむ」

2 単元の目標

- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の捉え方の違いに気付くことができる。
【関心・意欲・態度】
- 物が動く様子を具体的にわかりやすく書くことができる。
【書くこと(1)ウ】
- 大事な言葉や文に注意しながら読むことができる。
【読むこと(1)イ・エ】
- 「段落」について知り、文章の構成や、それぞれの内容を捉えることができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(キ)】

3 教材の特性

本単元は、「言葉で遊ぼう」と「こまを楽しむ」の2教材で構成されている。見開きで全文を見渡せる第一教材で、3年の説明文の読み取り方を習得し、より長い第二教材で、学んだ力を活用し、定着を図ることをねらっている。第一教材「言葉で遊ぼう」では、まず、「段落」がどういうものか確かめる。そして、全体が「初め」「中」「終わり」に分かれること、「初め」に「問い」があって、「中」に「答え」があり、「終わり」には、全体のまとめが書かれていることを捉えさせる。第2教材「こまを楽しむ」も同様の構造であるので、2つの教材文を読むことで、説明的な文章を正確に読み取るために必要な、「段落」に基づいて全体構造をつかむ力が身に付くと考えている。

自分の感想が文章のどこからきたものかを考えるという行為は、感想のもち方を自覚することにつながる。「何となく」ではなく、根拠をもって感想を話すことで、次の読みをさらに深くすることにつながる。また、感想だけでなく根拠をもって感想を話すことで、意見を主張するときなどにも、このような言語活動の在り方は生きてくる。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

- 【心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができる子
- 【心】友達との関わりを通して、学びを深めようとする子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができるようにするために

○伝えることだけでなく、聞くことにも重点をおいた小集団での話し合い活動

自分の意見を主張して話す傾向が見られるこの年代の児童同士が建設的な関わり合いを成立させるためには、話し手だけでなく聞き手の態度も重要となる。友達の多様な意見を受け入れた話し合いを成立させるには、小集団での活動を通して相手の話を共感的に聞くことや、話しを最後まで聞くことを身に付け、互いを尊重した話し合いができるようにする。

【心】友達との関わりを通して、学びを深められるようにするために

○児童主体の学習展開を図る

児童が主体的に学び合ったことにより、ここまでの学習が進んできたことが自覚できるような声掛けをする。また、本時を通して学んだことは、児童の言葉でまとめる。次時のめあても、子どもの意見から繋げられると良い。「まとめ=みんなのおかげでわかったこと」

○必然性のある教材提示の工夫をする

教師の指示で授業が展開していくのではなく、児童が主体的に小集団の学び合いに参加する意欲をもって学習できるよう、児童の実態・教科・単元によって教材の提示の仕方を工夫する。今回であれば、児童の興味・関心を引き、文章の内容を読み取る必然性を仕掛ける。友達とお互いの意見を確認したり話合ったりしたくなるような教材提示をする。

5 本時の学習 (6/9 時間)

(1) ねらい

- ・友達と積極的に関わり、建設的に自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりすることができる。
- ・段落ごとの文章の内容を理解し、文の構成や大事な文章に注意して考えることができる。

【思考力・判断力・表現力 主体性 多様な考え 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり】

(2) 展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ●評価
<p>1 前時までの復習</p> <p>「こまを楽しむ」を読み、文章の内容をもう一度確認する。</p> <p>みんなのおかげでわかったことを掲示し、前時までに学んだことを整理し、本時に活かそうと意欲を高める。</p>	<p>○前時までの学習内容が一目で復習できるように、あらかじめまとめたものを準備しておく。</p> <p>○児童が主体的に学び合ったことにより、ここまでの学習が進んできたことが自覚できるような声掛けをする。</p>
<p>全文シートにさし絵をつけよう</p>	
<p>2 個人で考える</p> <p>説明文の内容からわかる情報を元に、バラバラに配られた挿絵を文章通りに並び替える。</p>	<p>○説明文に合った挿絵をバラバラにして提示することにより、児童の興味・関心を引き、文章の内容を読み取ることに必然性をもてるようにする。</p> <p>●段落ごとの文章の内容を理解し、文の構成や大事な文章に注意して考えることができる。</p>
<p>3 小集団で考える</p> <p>4人グループの中で、個人で考えた意見を発表し合い、それぞれの考えをもとにさらに考えを深める。</p>	<p>○それぞれの考えを発表する際には、自分の意見に理由をつけて発表するよう声掛けをする。</p> <p>○友達の意見を聞いて自分の意見を改善することの良さを経験できるようにする。</p> <p>●友達と積極的に関わり、学びを深めようとしている。</p>
<p>4 小集団で話し合ったことを発表する。</p> <p>5 本時のまとめ</p> <p>まとめ(みんなのおかげでわかったこと)を考えてノートにまとめる。</p> <p>次時の学習課題を確認する。</p>	<p>○本時を通して学んだことは、児童の言葉でまとめる。</p>

次	時	学習活動	○指導内容 ●評価
第一次	1	○言葉遊びについて知っている情報や経験談を話し合う。 ○「言葉で遊ぼう」を読み、回文やさかさ言葉などに興味をもつ。	○言葉遊びについてしていることを交流したり、簡単な言葉遊びをしたりしながら、学習内容に対する意欲をもたせる。 ○「言葉で遊ぼう」を読み、わからない言葉は辞書で調べさせる。 ●「言葉で遊ぼう」の文章に興味をもって考えようとしている。
	2	○「言葉で遊ぼう」を読み、段落や説明文の文章の組み立て(はじめ・中・おわり)について知る。	○「形式段落」や「はじめ」「中」「おわり」のまとまりについて理解させる。 ●「形式段落」や「はじめ」「中」「おわり」のまとまりについて理解しようとしている。
	3	○「問い」と「答え」の関係に着目し、各段落の内容を捉える。 ○「言葉で遊ぼう」の内容を捉え、感想を交流する。	○「問い」と「答え」の関係を捉え、内容を整理させる。 ○内容を捉えた上で感想をもち、交流させる。 ●「問い」と「答え」の関係について理解しようとしている。 ●交流を通して、考えの違いに気付いている。
第二次	4	○こまなどの昔遊びをした経験について話し合う。 ○「こまを楽しむ」を読み、こまについて興味をもち、自分なりの感想をもつ。	○こまなどの昔遊びをした経験を話し合ったり、実際のこまを見たりすることによって、学習内容に対する意欲をもつ。 ○「こまを楽しむ」を読み、わからない言葉は辞書で調べさせる。 ●「こまを楽しむ」の文章に興味をもって考えようとしている。
	5 (1組本時)	○「こまを楽しむ」を読み、文のまとまりや「問い」と「答え」に着目して文章全体の構成について話し合う。 (小集団活動)	○文の「まとまり」や「問い」と「答え」に着目し、文章全体の構成を捉える。 ●「まとまり」や「問い」と「答え」の特徴を理解して考え、話し合っているか。
	6 (2組本時)	○「中」に書かれている様々なこまの例を挙げたそれぞれの文の構成に着目して、段落ごとに詳しく読む。読み取った内容に合う挿絵をワークシートにはる。 (小集団活動)	○「中」の各段落が「こまの名前」「こまの遊び方」「作りや特徴」の構成で書かれていることを確認させ、交流する。 ●各段落の構成を捉えて、自分の説明に生かしている。
第三次	7・8	○自分ならどんなこまを紹介したいか考え、段落内の構成を生かして書く。 ○書いた物を互いに読み合い、感想を交流する。	○「こまを楽しむ」の文章構成図などを掲示し、確認しながら進める。 ○友達が書いた物を読んだ感想を交流させる。 ●文の構成に気をつけて、読み手にわかりやすく書くことができる。 ●交流を通して、考えの違いに気付いている。
	9	○単元の学習を振り返る。	○説明文は筆者の思いが読み手に伝わるように構成に気を付けてかかれていることを確認する。 ○相手に自分の思いを書くときにも「はじめ」「中」「終わり」の構成にすることでより相手に伝わりやすくなることを確認する。 ●文の構成に気を付けて読んだり、書いたりすることのよさに気付いている。

第3学年 特別活動・学級活動 学習指導案

日時 7月4日(火) 第5・6校時
学級 第3学年3組 36名
指導者 大沢 卓美(担任)
上野 弘子(養護教諭)
福田 雅臣(歯科医)

1 活動名(題材名) 「未来につなげよう!かむことの力」

2 活動設定の理由

物を食べる時よく噛むことが大切なのは、ほとんどの児童が知っている。しかし、口には多くの働きがあり、よく噛むことでその働きが活発になることはあまり知られていない。また、健康な体づくりと噛むことは密接な関係があることは知っていても、その意味や理由については、あまり知られていない。

本活動では、ガムを噛んでいる時の口の中の変化を細かく観察し、自らが見付けた口の働きが健康な体づくりにどんな影響があるのかを専門家の話を通して理解し、その大切さを実感してほしいと考える。

本活動では、噛むことの大切さについて関心を高め、自らの食生活を振り返り、これからの食生活がより豊かなものになるよう設定した。

3 他教科等との関連

体育科(保健領域) 「毎日の生活と健康」

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(特別活動の目標及び研究主題より)

【心】互いの違いやよさを理解し、よりよい関わりができる子

【体】自らの生活を見つめ、健康な体づくりに向けて、よりよい食生活を実践しようとする子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】互いを理解し、よりよい関わりができるようにするために

○ 小集団の活用

一人一人が自分の考えをもち、話し合い活動に積極的に参加できるよう、話し合い活動の場面で小集団活動を活用することとした。話し合い活動を通して、互いの考えのよさや自分との違いに気づき、考えを深めるとともに「他者理解」につながると考える。

○ブレインストーミング会議の活用

発達の段階を考えると、自分本位の考えから少しずつ回りが見え、他人の意見を尊重できるようになる段階ではあるが、話し合いの場面を見る限り、まだまだ友達の意見を否定している場面が少なくない。そこで、互いの考えを尊重し合いながら話し合うことの良さを実感できるよう、否定せずに「いいね」と受け止められることの心地よさを体験することができるブレインストーミング会議を用いることとした。

【体】よりよい食生活を実践しようとするために

○ 口の中の働きが実感できるようにするために咀嚼判定ガムを使用

口の中の変化やはたらきが目で見て分かるよう、咀嚼判定ガムを使用する。そして、観察活動を行い、自らの気づきや考えと健康づくりとの関係が結びつくことで、確かな学びにつながると考える。また、実感を伴う体験活動を行う際に、日頃から子どもの体や健康について関わっている養護教諭がその専門性を生かすこととした。

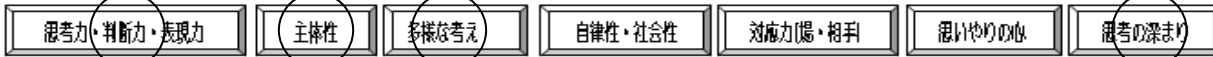
○ 試食活動の導入

今自分たちが考えたことや学習したことを意識して、実感を伴った体験につながるよう、試食活動を行うこととした。

○ 学習がより深まるようにするために、歯科医と互いの専門性を生かして連携

歯科医と連携し、口の中の働きや機能、全身の健康へのつながりなどについて、歯科医の専門性を生かした話を聞くことで、子どもたちの学習がより深まるような授業を展開することとした。

6 本時の学習（1・2／2時間）



(1) ねらい

- ・噛むことの大切さに気付き、口内センサーを活発に働かせ、健康づくりに向けてよりよい生活を送るための手だてを考えることができる。

(2) 展開

児童の活動	主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ☆評価																									
<p>1 時間目</p> <p>1 口の働きについて予想する。</p>	<p>口にはいろいろな働きがあります。口の「どこを使って」「どんな働き」をしていると思いますか。</p> <table border="1" data-bbox="422 504 965 705"> <tr> <th>「どこをつかって」</th> <th>「どんなはたらき」</th> </tr> <tr> <td>C あご</td> <td>C 食べる</td> </tr> <tr> <td>C 口</td> <td>C 話す</td> </tr> <tr> <td>C 口びる</td> <td>C かむ</td> </tr> <tr> <td>C 歯</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C のど</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C した</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C 他にできることはないかな??</p>	「どこをつかって」	「どんなはたらき」	C あご	C 食べる	C 口	C 話す	C 口びる	C かむ	C 歯		C のど		C した		<p>○食事をしている時の口の動きを想起できるように、部位（あご、唇など）に分けて考えるよう指示する。</p> <p>○児童が想起できなかったことについて関心が高まるよう、疑問を提示して次の活動に期待感をもてるようにする。</p>											
「どこをつかって」	「どんなはたらき」																										
C あご	C 食べる																										
C 口	C 話す																										
C 口びる	C かむ																										
C 歯																											
C のど																											
C した																											
<p>2 口のいろいろな働きについてガムを噛んで調べる。（ペア学習）</p>	<p>ガムをかんで「口の様子」「ガムの様子」を観察して、「何のために働いているか」を考えましょう。</p> <table border="1" data-bbox="422 884 965 1075"> <thead> <tr> <th>口の部位</th> <th>口の様子</th> <th>何のために働いているか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>口びる</td> <td>閉じている</td> <td>ガムが出ないため</td> </tr> <tr> <td>あご</td> <td>上下に動く</td> <td>ガムをつぶすため</td> </tr> <tr> <td>した</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>のど</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>など</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="422 1097 965 1198"> <thead> <tr> <th rowspan="3">ガムの様子</th> <th>かたさ</th> <th>かたくなった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>味</td> <td>うすくなった</td> </tr> <tr> <td>大きさ</td> <td>小さくなった</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C 口の中の働きってたくさんあるね!</p>	口の部位	口の様子	何のために働いているか	口びる	閉じている	ガムが出ないため	あご	上下に動く	ガムをつぶすため	した			のど			など			ガムの様子	かたさ	かたくなった	味	うすくなった	大きさ	小さくなった	<p>○口の様子やガムの様子を細かく観察ができるよう、咀嚼ガムを用いる。</p> <p>○何のために働いているかにつながるよう、部位別に分けて観察し、各部位が何のために動いているかを考えるように促す。</p> <p>○歯科医の話に興味をもてるよう、口の中の働きにはいろいろあること確認して口内センサーにつなげる。</p>
口の部位	口の様子	何のために働いているか																									
口びる	閉じている	ガムが出ないため																									
あご	上下に動く	ガムをつぶすため																									
した																											
のど																											
など																											
ガムの様子	かたさ	かたくなった																									
	味	うすくなった																									
	大きさ	小さくなった																									
<p>3 口内センサーについて歯科医の話聞く。</p>	<p>噛むことで働く口の中のセンサーについて歯科医の福田先生からお話を聞きましょう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C よく噛んで食事がしたい!!</p>	<p>○観察したことと健康づくりが結び付くよう、口内センサーについて観察結果を踏まえながら具体的に説明する。</p> <p>☆口の働きについて意欲的に調べ、噛むことの大切さ気付くことができる。</p>																									
<p>2 時間目</p> <p>4 本時の学習課題を知り、よりよい生活を送るための方法について話し合う。（小集団活動）</p> <p>5 生活目標にまとめる。</p>	<p>口内センサーを活発に働かせ、よりよい生活を送るためには、どうしたら良いだろうか。</p> <p>ブレスト会議で口内センサーを活発に働かせてよりよい生活を送るための方法について考えましょう。</p> <p>今日の学習を振り返り、より良い生活のための目標を3つにまとめましょう。</p>	<p>○ブレスト会議のルールが明確になるようルールを提示する。</p> <p>○話し合いが活発に行えるよう、考えるための視点を提示する。</p> <p>○クラス全体で考えが共有できるように、各グループの考えを見合う時間を設定する。</p>																									
<p>6 生活目標を意識して食事をする。</p>	<p>目標を意識して、食事をしましょう。</p>	<p>○口内センサーを意識して食事ができるよう、歯科医の話振り返る。</p> <p>○各グループでまとめた目標を意識して食事ができるよう、テーブルの真ん中に目標を提示する。</p>																									
<p>7 学習を振り返ってこれからの生活について考える。</p>	<p>今日の学習を振り返り学習感想を発表しましょう。</p> <p>C 口にはこんなにたくさんの働きがあるとは思わなかった。</p> <p>C よく噛んで食べるためにしっかり歯を磨く。</p> <p>C 早寝・早起き・朝ご飯をもっと意識したい。</p> <p>C もっと味わって食事ができるようになりたい</p>	<p>☆口内センサーを活発に働かせ、健康づくりに向けてよりよい生活を送るための手だてを考えることができる。</p>																									

第4学年 体育科学習指導案

日 時 7月4日(火) 第6校時
学 級 第4学年1組 30名
指導者 大竹 悠介
指導補助員 山下 智貴

1 単元名 器械運動 「マット運動」

2 単元の目標

技能	・基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技や発展技ができるようにする。
態度	・運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と励まし合って運動ができるようにする。 ・場や器械・器具の準備や片付けを安全に行ったり、試技の開始前の安全を確かめたりすることができるようにする。
判断	・自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるための活動を工夫できるようにする。

3 運動の特性

- できる技を繰り返したり、組み合わせたりして楽しめる運動である。
- 得意な回り方で回ったり、新しい回り方に挑戦したりして楽しめる運動である。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像（体育の目標及び研究主題より）

【心】 友達との関わりの中で、対話をしながら互いの力を主体的に高め合う子
【体】 運動の特性に応じた楽しさを味わい、自己の課題解決に向けて進んで運動する子

(2) 研究主題（児童像）に迫るための手だて

【心】 対話をしながら互いの力を主体的に高め合えるようにするために

○小集団活動の活用

単元を通して、小集団での活動を意図的に設け、学び合う活発に行わせる。小集団は技能異質で組み、単元を通して同グループで学習を進めることで、友達の課題についても共有し、支援をし合いやすくする。さらに、その課題が解決した喜びをグループのものと捉えさせ、進んで学び合おうとする態度を育てていく。

○学習資料の活用

自分の能力に適した課題がもてるように、基本的な技のポイントに応じた練習方法を載せた学習資料を用意する。また、活動場所の近くに置いたり掲示したりすることで、学び合いをする際の手助けとする。

【体】 自己の課題解決に向けて進んで運動できるようにするために

○選択と場の工夫

できない技をできるようにしたり、できる技を安定してできるようにしたりするために、それぞれの課題に合った支援の場を用意する。また、自身の課題を解決するための場を選ばせる。

○課題解決のための話し合いを活発にするための ICT 機器の活用

グループでタブレットを使用できるようにし、友達の動きを撮影することで、自己の課題をより明確に捉えさせ、解決に向かう一助とする。

6 本時の学習（6 / 7時間）

(1) ねらい

【技能】 自分の力に合った基本的な回転技や倒立技を行うことができる。

【態度】 きまりを守り、仲良く運動をすることができる。

◎【思考・判断】 基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。

【**思考力・判断力・表現力**】 **主体性** 多様な考え 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 **思考の深まり**】

(2) 展開

主な学習活動	○支援 ●評価
1 集合・整列・挨拶 2 学習の流れの確認 3 準備運動	○服装を確認する。 ○自己の課題について確認をする。 ○本時で使う部位を中心に行う。
4 感覚づくりの運動を行う ・かえるの足打ち ・手押し車 ・ゆりかご	○技に関連した運動を取り入れ、苦手意識をもった児童も、安心して行うようにする。
5 倒立技の中で自分の力に合った課題をもち、活動を行う (場の例) ・ゴムを使う ・跳び箱を使った腕立て横飛び越し 6 回転技の中で自分の力に合った課題をもち、活動を行う (場の例) ・坂道マット ・細マット ・ロングマット など <自分に合った課題> ① 基本技の取り組み ② 発展技の取り組み ③ 技の繰り返し、技の組み合わせ ※①に十分取り組ませてから②や③に取り組ませる	○基本的な技に十分取り組んでから、技を繰り返したり組み合わせたり、発展技にも挑戦する。 ○技能異質のグループを組み（3人程度）、自分の課題にあった場をえらんで、運動を行う。 ○学習資料を用意し、課題に合った場を選んだり、学び合いをしたりする際に活用できるようにする。 ●自分の力に合った基本的な回転技や倒立技を行うことができる。 [観察] ●自分の力に合った課題を選んでいる。 [観察・学習カード]
7 整理運動	○運動で使った体の部位を中心に、リラックスしながら行えるようにする。
8 学習の振り返り	○取り組んだ課題と、できるようになったことを発表する。
9 学習のまとめ	○めあてや課題の達成状況を考慮して次時の課題やめあてを決める。
10 集合・整列・挨拶・片付け	○安全に気を付け、友達と協力して片付けをする。

4年 マット運動 単元計画

学習の段階	学習の進め方を知る	技の行い方を知る		
時数	1	2	3	
一時間の学習の流れ	1 学習の進め方を知る	1 集合・整列・挨拶		
	2 安全な運動の仕方をたしかめる。	2 学習の流れの確認		
	3 場の準備をする	3 準備運動・場の準備		
	自分のグループの役割を覚える	4 感覚づくりの運動 (ゆりかご、かえるの足打ち、手押し車)		
	4 感覚づくりの運動の行い方を知る 4年生で取り組む基本的な技を知る	5 回転技の練習に取り組む 回転技の動き方や練習方法を確認する	5 倒立技の練習に取り組む 倒立技の動き方や練習方法を確認する	
	5 回転系の基本的な技ができているか確認する	<ul style="list-style-type: none"> 動きを実際に見せながら確認し、動き方を伝えていく 見る児童は、どの場所に立ち、どこを見ればよいかを確認する 学習資料の見方や使い方を知る 学習資料を活用し、友達の動きをポイントごとに確認する 		
	6 倒立系の基本的な技ができているか確認する			
	7 整理運動			
	8 学習の振り返り			
	9 学習のまとめ	6 整理運動		
10 整列・挨拶・片付け	7 学習の振り返り			
	8 学習のまとめ			
	9 整列・挨拶・片付け			
評価の重点	関・意・態	③	④	②
	思・判			
	技		①	②

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断
	①技ができるようになるために、練習に進んで取り組もうとしている。	①学習カードや資料などをもとに、自分の力に合った技を選び、その技に応じた練習の場や練習方法を選んでいる。
	②マット運動のきまりを守り、グループで協力して、自分の試技を見てもらったり、友達にアドバイスをしたりしながら技の練習をしようとしている。	
	③グループで役割を決め、友達と協力して、練習の場を作ろうとしたり、用具の準備や片付けをしたりしようとしている。	②自分の力に合った技の動き方やポイントを知り、自分の力に合った課題を選んでいる。
	④安全に気を付け、マットや用具などの安全を確かめて練習をしようとしている。	

自分の力に合った課題に沿って活動する			
4	5	6	7
5 倒立技の練習に取り組む	5 倒立技の中で自分の力に合った課題をもち、活動を行う		
6 回転技の練習に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題にそって課題に取り組む ・基本的な技に十分取り組んでから発展技にも挑戦する 		
<p>前時までに行ったポイントを振り返る</p> <p>児童のつまずきに応じて技のポイントを伝える。</p> <p>グループで見合い、できているところやできていないところを伝え合わせる</p> <p>どの場で、どのような練習をすればよいか話し合わせる</p>	<p>6 回転技の中で自分の力に合った課題をもち、活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題にそって課題に取り組む ・基本的な技に十分取り組んでから、技を繰り返したり組み合わせたりし、発展技にも挑戦する 		
7 整理運動			
8 学習の振り返り			
9 学習のまとめ			
10 整列・挨拶・片付け			
①			
②	①	②	
	①②		①②

技能
①しゃがんだ姿勢から体を丸めて前方に回転し、しゃがみ立ちになることができる。しゃがんだ姿勢から体を丸めて後方へ回転し、しゃがみ立ちになることができる。
②体を振り下ろして両手を着くとともに脚を振り上げ、両足を壁にもたせかけ逆さ姿勢になることができる。体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ、反対側へ移動することができる。

第4学年 道徳学習指導案

日 時 7月4日(火) 第6校時
学 級 第4学年2組 31名
指導者 太田 知依

1 主題名 かがやく自分 (A 個性の伸長)

2 資料名 「ばんざい大きな花まる」 (出典: みんなの道徳 学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

一人一人にはそれぞれの個性がある。かけがえのない人生を自分らしく生きていくためには、自分の特徴に気付き、個性を伸ばしていこうと努力していくことが大切である。また、特徴とは他と比べて特に目立つ点であり、長所だけではなく短所も含む。中学年の段階において自分の特徴に気付くとは、自分のよいところや悪いところなどに気付くことであると考えられる。その上で、よいところをさらに伸ばしていき、自分の個性を伸ばすようにするのである。本時は、児童が多様な個性や生き方に触れる中で自分の特徴に気付いたり、友達にも同じように長所や短所があることに気付いたりすることができる場としたい。

(2) 資料について

本資料は「心のテスト」として「人間のいい順に並んでみて。」と先生から言われた4年1組の子どもたちが、それぞれの長所を出し合いながら「人間のいい順」の意味について考えていく中で、みんなよいところもあり、悪いところもあるということに気付いていくという内容である。授業の中で、「いい人間」について実際に児童に考えさせる過程で、多様な価値観に触れる。その活動を通して、それぞれに長所や短所があることを知り、自分の特徴に気付いて自分や友達の個性を大切にしようとする心情を育てたい。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像 (道徳の目標及び研究主題より)

【心】自らを見つめ、自らに問い掛けながら、自分の考えをもてる子
【心】友達との関わりの中で、よりよい生き方を見付けようとする子

(2) 研究主題 (児童像) に迫るための手だて

① 「自らを見つめ、自らに問い掛けながら、自分の考えをもてる子ども」に育てるために

○発問の工夫 (議論に値する発問)

児童が迷いながらも自己の生き方の指針をもてるようにするためには、授業における発問に対する必要感や切実感が必要である。そういった発問を「議論に値する発問」としてとらえ、本授業では「人間のいい順に並んで」という悩まざるを得ない発問を投げ掛けることにより、主体的に考えることができるようにする。

○言語活動の充実 (小集団とワークシート)

まず個々に自分の考えをもつ時間を設け、小集団 (6人程度) で話し合い、学級全体で意見や考えを共有する、という段階を踏むことで、一人一人が考えをもち、その考えをもとに考えを深めていけるようにする。また、全体の場での発言が苦手な児童らも、誰かに自分の考えを伝え、聞いてもらうという経験ができるようにする。

ワークシートを活用することで、自分の気持ちや考えを整理できるようにする。また、話し合いの際にも、全員が考えをしっかりとって話すことで、話し合いが活発になると考える。

② 「友達との関わりの中で、よりよい生き方を見付けようとする子ども」に育てるために

○小集団活動の導入 (話し合いの場)

「人間のいい順に並んで」という発問に対するそれぞれの考えを議論する場を設定する。児童が自らの生き方の指針を確固たるものにするためにも、自分の考えに固執するのではなく、自分の考えを伝えつつ、友達の意見に耳を傾ける過程が必要である。また、小集団での活動を設けることは、多様な価値観に触れることにつながり、多様性を認識できる場になると考える。様々な価値観について議論できる主体的かつ協働的な話し合いを目指す。

5 本時の学習

(1) ねらい

友達の良いところや悪いところを考え合うことにより、誰にでも長所と短所があり、自分の特徴に気付いて、よさを大切にしようとする心情を育てる。

【思考力・判断力・表現力 **主体性** **多様な考え** 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 **思考の深まり**】

(2) 展開

主な学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
<p>1 事前を書いておいた自分の長所と短所を挙げる。 ○カードに書いた自分の長所と短所を発表してみましょう。</p>	<p>◇自分の長所・短所を見つめ、本時のねらいとする価値への意欲付けを行う。</p>
<p>2 資料「ばんざい大きな花まる」の前半(はじめ～9行目)を読み、子どもたちの気持ちについて話し合う。</p> <p>①「いい人間」とはどんな人間のことが考える。 ○お話の中に「いい人間」と出てきたけど、「いい人間」ってどんな人のことだと思いますか。 ・進んで係の仕事ができる人 ・やさしい人 ・困っている人を助ける人 ・明るい人</p>	<p>◇教師が範読する。 (挿絵のみ提示し、資料は配布せずに読み上げる。)</p>
<p>②小グループ(6人程度)ごとに「人間のいい順」について考えながら並んでみる。 ○では、実際にみんなも「人間のいい順」に並んでみましょう。 ・Cさんは、いつもちゃんと先生の話聞いてるから前の方じゃないかな。 ・ぼくはたまにふざけちゃうから後ろの方がいいかな。 ・Dさんは友達に優しいから前の方に行っていんじゃないかな。 (話し合いがまとまらなくても様子を見て、時間で終わりにする。)</p>	<p>◇資料の場面を追体験できるように設定し、資料と同じように話し合い活動を行い、意見の交流を図る。 ◇互いによいところを出し合いながら活動することで、個人の多様性を感じ、友達のよさ、自分のよさに気付くようにする。 ◇並べたグループがあった場合には、並んでみて感じたことや気付いたことがあったか、補助発問を入れる。 子どもの反応を見ながら進める。</p>
<p>3 資料「ばんざい大きな花まる」の後半(9行目～終わり)を読み、子どもたちの様子について話し合う。</p> <p>③最後に大きな輪をつくった様子を見て、自分が考えたことを書く。【ワークシート】 ○お話の中の子どもたちも、さっきのみんなと同じように悩んでいましたね。最後に大きな丸をつくったのを見て、みんなはどう思いましたか。 ・みんなそれぞれいいところがあるから、いい順なんて決められないんだな。 ・自分も友達や自分のよさをもっと見付けたいな。 ・それぞれのよいところを伸ばしていきたいな。 ・いいところをもっと増やしていきたいな。</p>	<p>◇教師が範読する。 (資料を開かせる。)</p> <p>☆誰にでも長所と短所があり、自分の特徴に気付いて、よさを大切にしようとするとする心情を育てる。 (主発問) ◇②の活動(問題)とつなげて考えられるように発問する。</p>
<p>4 資料から離れ、自分自身のことについて振り返る。 ④自分のカードに、友達に長所を書いてもらう。 ○自分のよさってなかなか自分ではわかりませんよね。友達に書いてもらいましょう。</p> <p>⑤本時の活動を振り返って、どんなことを感じたか振り返る。【ワークシート】 ○この時間を通して感じたことや考えたことを書いてみましょう。 ・自分のことをこれからも考えていきたい。 ・自分のよさを大切にしていきたいな。 ・自分にも友達にもそれぞれ長所があることがわかったよ。</p>	<p>◇③の中で一人一人に長所・短所があることを押さえたところで、自分が気付いていない長所を出してもらう時間にする。</p> <p>◇資料を通して考えた価値と、自分の生活とを結び付けて考える時間にする。 ◇活動前のカード(自分の長所・短所を書いた紙)も見ながら、本時の活動を振り返らせることで、1時間での気持ちや思考の変化に気付くようにする。</p>
<p>5 詩「百人百様」(柴田宋休)を読む。</p>	<p>◇人それぞれでよいところがあり、それは多様であることを感じられるようにする。</p>

第4学年 図画工作科学習指導案

日 時 7月4日(火) 第5校時

学 級 第4学年2組 31名

指導者 古館 俊江

1 題材名 光のカーテン

2 題材の目標

【造形への関心・意欲・態度】

・光を通して美しく見える形や色、その構成に関心を持ち、空間を楽しくすることに取り組もうとすることができる。

【発想や構想の能力】

・光を通した時の形や色の見え方を考えたり、発想を広げたりすることができる。

【創造的な技能】

・光を通した形や色の美しさや面白さを材料の特徴を生かしながら試し、効果的に表すことができる。

【鑑賞の能力】

・光を通してできる形や色について自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いて取り入れたりして、表現の工夫を感じ取ることができる。

3 題材について

本題材は光を通す材料を使って、形や色の重なり合いの美しさや面白さを感じ取り、表現する活動である。何もない透明な画面に一つ一つ形や色を付けていくことで、自分たちの世界を一からつくり、どんどんそれが広がってつながり、変化することが児童の意欲につながると考えた。また、身近な人から頼まれたという設定により、自分だけのための作品ではないので、一人で考えるより、小集団で考えることが、自分にはない考えを感じ取り、より良いものをつくり出すことにつながると考えた。

光を通す材料は、3年生の時に、トレーシングペーパーにセロハンを貼った作品をつくり、経験をしている。今回は、セロハンだけでなく和紙など、材料の種類を増やし、選択の幅を広げ、いろいろな見え方を見付けられるようにした。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像（図画工作の目標及び研究主題より）

【心】互いのよさや違いを認め合いながらよりよい発想を生かし、それを高めていける子

(2) 研究主題（児童像）に迫るための手だて

【心】

①互いのよさや違いを認め合えるようにするために、小集団を活用する。（小集団の活性化のためのデザインシートの活用）

一人だけの考えでは、自分が満足する作品をつくることはできても、そこで終わってしまう。感じたことや、思ったことを友達と共有したり、違う考えがあることを知ったりすることで、新しい発見につながると考えた。そのため、自分の考えを発言することもでき、他の友達の思いも感じ取れる人数と考え3～4人の小集団での活動を取り入れた。小集団活動をより活発にする手だてとして、初めに班にデザインシートを渡してどんなデザインにしたいかを話し合い、テーマを決めてからそのイメージを形や色に表現するようにする。デザインの方向を決めることで、小集団での話し合いが活発になり、イメージも共有されるのでより活動しやすくなると考えた。

②豊かな心の育成と図画工作科の目標達成のために、小集団活動の中で言語活動を充実させる。図工の時間の中で、自分の思い通りに作品がつくれた時や、よい作品を見て思わず声に出して

しまうことなど、子どもたちは一人の中でもいろいろな思いを感じている。

その素晴らしい発見を自分だけではなく、友達と共有することでさらに喜びや感動が広がっていく。その手だてとして言語活動は重要だと考える。また、材料の扱い方の工夫を友達から知ること、自分の作品がよりよいものになっていくことを感じられる。今回は、言語活動を活性化するために、デザインシートを活用し、さらに話し合いのルールを決めて、どの児童も参加できるようにした。話し合いがまとまらないところには、友達の考えのよさに気付けるよう声を掛け、どの児童も自分らしさを出せるように心掛けた。普段の授業の時間でも、友達との関わりを大切に、友達の考えのよさを見付けられるように声を掛けている。

5 本時の学習（3／4時間）

【思考力・判断力・表現力】 主体性 **多様な考え** 自主性・社会性 対応力（場・相手）思いやりの心 思考の深まり】

(1) ねらい

・友達と話し合っつくった形をビニールシートに形や色の重なり合う美しさを感じながら、光を通した見え方を工夫して貼っていく。

(2) 材料、準備

児童：ハサミ

教師：ビニールシート セロハン 和紙 梱包材 スズランテープ お花紙
 透明スパレントペーパー 超薄折り紙 トレーシングペーパー セロテープ
 マジック

(3) 展開

時間	主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
導入 5分	1 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">光のカーテンをつくろう</div> 2 前回切ったり重ねたりした材料をビニールシートに貼っていく。	◇材料や用具を準備しておく。 ◇前回デザインシートを使って友達と話し合いながらつくった形や色を、どこにどんなふう貼っていくかを班で話し合い、協力してつくることを伝える。
展開 30分	3 3～4名の小集団の友達と話し合いながら自分たちの発想のよさが生かされる作品になるように、協力してつくる。	◇机間指導をしながら見え方や貼り方のアドバイスをする。 ◇話し合いが活性化するように、光を通して見えた美しいと感じた形や色を友達と見せ合いながら貼っていくように伝える。 ☆形や色の重なりや光を通した見え方を考えて貼り方などを工夫している。（創造的な技能）
まとめ 片付け 10分	4 自分たちの作品や、他の班の作品を見る。 5 作品の工夫したところや美しく見えるところを発表し、感想を伝える。 6 片付けをして、次時の予告をする。	◇作品を見て、工夫しているところや美しく見えるところを見付けるように声を掛ける。 ◇全体で共有できるように何名かに感想を聞く。 ◇次の時間に鑑賞する時間をもつこと伝える。

4-2 (図工) 指導計画及び評価計画 (総時数4時間)

活動時間	学習活動	評価の重点				評価規準 (おおむね満足な状況)	努力を要する児童への 手立て	評価方法
		関	発	技	鑑			
1	1 小集団での制作のきっかけとして、担任の先生のために、光を通してきれいに見える飾りをつくることを知る。 ・デザインシートを使って、小集団でどんなデザインにするかを話し合う。	◎				◎光を通して見える材料を生かした形や色を考えることを楽しんでいる。	・話し合いの中で、友達の考えのよさに気付けるように声を掛ける。	活動の様子 デザインシート
2	2 デザインシートで決めたことをもとに、材料を選び、形に切る。		◎			◎光を通して見える形や色のよさを感じながら、いろいろなつくり方を試している。	・材料の使い方を一緒に考えたり、友達の表現を見せたりしながら、自分のイメージに合った形や色を見付けられるように助言する。	活動の様子 試してつくった形
3 (本時) 4	3 小集団で話しながら、切った材料をビニールシートに貼って、「光のカーテン」をつくる。 4 それぞれの作品を見合って、違いやよさを見付ける。 ・出来上がった作品を担任の先生に見せる。			◎	◎	◎光を通して美しく見える形や色の組み合わせを試し、工夫して貼っている。 ◎他の班の作品を鑑賞して、そのよさに気付く。	・形や色の重なりを考えてよいと思う表現を試して貼るように声を掛ける。 ・友達の発言のよい所を感じられるように話をする。	活動の様子 貼った形や色 発表内容

※小集団で作品づくりをする活動を4年、5年、6年と積み重ねていくことで、将来大人になり社会に出た時、他の人のよい考えを理解し、目的に向かって協力することのできる人に育っていくことを期待している。

第4学年 理科学習指導案

日 時 7月4日(火)第6校時
 学 級 第4学年3組 31名
 指導者 千葉 日織

- 1 単元名 電池のはたらき
- 2 単元の目標

電気のはたらきについて興味・関心をもって追究する活動を通して、乾電池のつなぎ方や光電池に当てる光の強さと回路を流れる電流の強さとを関係付けるとともに、それらについての理解を図り、電気のはたらきについて見方や考え方をもちつことができるようにする。

- 3 単元について

3年	4年	5年	6年
電気の通り道 ア 電気を通すつなぎ方 イ 電気を通す物	電気のはたらき ア 乾電池の数とつなぎ方 イ 光電池の働き	電流の働き ア 鉄心の磁化、極の變化 イ 電磁石の働き	電気の利用 ア 発電と蓄電 イ 電気と光、音、熱 ウ 電流と発熱 エ 電気の利用

本単元では、乾電池の数やつなぎ方、光電池に当てる光の強さを変えて、モーターを回したり豆電球を点灯したりして、モーターの周り方や豆電球の明るさの変化を調べ、回路を流れる電流をとらえることをねらいとしている。

本単元では、自作のモーターカーをバックさせたり速く走らせたいたりしたいという思いを大切に、モーターの動きと乾電池の様子を関連付けて学習を進めていく。その中で電池のつなぎ方やそれによってエネルギーが大きくなること、そのことで豆電球の明るさが強くなったり、モーターの回る速さが速くなったりすることをとらえ、電池の働きについての見方や考え方を育てることを目指す。

- 4 研究主題との関連

- (1) 目指す児童像（理科の目標及び研究主題より）

- 【心】友達と協力しながら、問題を解決する子
- 【心】結果と関連付けて考察し、科学的な言葉を用いて表現できる子

- (2) 研究主題（児童像）に迫るための手だて

- ①友達と協力しながら、問題を解決できるようにするために
- 答えの多くある課題を解決するために、小集団で協力して実験方法を考える。
 - ・乾電池2つを使ったつなぎ方とモーターの回る速さについて、調べる方法を考える活動を行う。プロペラが回る速さは目視での比較が難しいため、実験をしていない人にも違いを伝えられる方法を実験ペアで考える。モーターを使う方法でも、軽い物を移動させる、プロペラをとばす、テープをなびかせるなど様々な方法が考えられるため、より科学的に、より誰にでも伝わりやすい方法を検討するためにペアの小集団で話し合い、協力して問題を解決する力を育てる。また、違う小集団とアドバイスを交換し合うことにより、もう一度自分たちの実験方法を振り返ることができ、より実験方法を深めることができると考える。
 - ・小集団での話し合いを活性化させるために、実験方法の組み立てポイントを提示し、そのポイントに沿って話し合いや他の小集団へのアドバイスを行う。
- ②結果と関連付けて考察をし、科学的な言葉を用いて表現できるようにするために
- 課題解決型学習の一連の過程を意識し、小集団の中で見通しをもって学習を行う。
 - ・実験の内容がどのように課題解決につながるのかを理解するために、活動をする前に考察の見通しを立てる。自分の行う実験が、どのような結果が出ると、どういった課題解決につながるのかを小集団ごとに見通しを立てワークシートにまとめておくことで、何のために実験を行うのか目的をもって活動することができる。
- 課題解決型の学習を推進するために、適切な言語活動を行える環境を設定する。
 - ・考察を書く際、考察ポイントを使い、「課題に沿うこと」「結果をもとにして自分の考えを組み立てること」を意識しながら考察を書く。
 - ・科学的な言葉を用いるため、授業中に習った言葉を繰り返し、予想や結果や考察を書く場面で正しい使い方を定着させる。ノート指導を丁寧に行い、意識的に科学的な言葉を使うよう指導をする。

5 本時の学習（6 / 11 時間）

(1) ねらい

電池がひとつの回路と、電池が二つの直列つなぎと並列つなぎの回路に流れる電流の大きさを比べるための方法を考える活動を通して、より具体的な実験結果の得られる実験方法を考える。

【思考力・判断力・表現力 **主体性** **多様な考え** 自律・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 **思考の深まり**】

(2) 展開

主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
<p>○前時までの復習を行う。 前時までに学習した課題・予想・電池2つのつなぎ方について復習を行う。</p>	
<div data-bbox="284 510 1326 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>かん電池1つと比べて、かん電池2つのつなぎ方を変えるとモーターの回る速さはどのようになるのだろうか。</p> </div> <p>○実験方法を立てる時のポイントについて学習する。 ○実験の見通し表の書き方を知る。</p> <div data-bbox="148 947 703 1037" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>綿・折り紙・ビニールテープ・ピンポン球・スズランテープ、ビニール袋、上質紙</p> </div> <div data-bbox="156 1048 331 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>小集団活動</p> </div> <div data-bbox="148 1111 699 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○実験方法もさくタイム（15分） （ペアで実験方法を考える。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用意された実験道具を見て実験方法を考える。 ・実験方法の立案するポイントを意識して、より科学的な視点で実験方法を協力して考える。 </div> <div data-bbox="148 1447 699 1872" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○アドバイスタイム（15分） （違うペアの実験方法についてアドバイスをを行う。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験方法ポイントをもとに相手ペアにアドバイスをする。 ・相手の実験方法についての説明を受け、その実験方法の良い点と改善点や疑問点に分けて指摘する。 ・アドバイスを付箋に書き相手ペアに渡 </div> <p>・アドバイスタイムを経て、自分たちの実験方法について考える。 ・本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇指導上の留意点・支援 ☆評価</p> <p>◇実験方法ポイントを示す。 ・実験方法ポイントを4つ提示し、本時の中で考える視点を与える。</p> <p>◇どのような結果が得られたら、より電流の力が強いと言えるのかについて考えることができるよう、ワークシートを配布する。（2人の小集団で考え、個人のワークシートに記入する。）</p> <p>◇より幅広い実験方法を考えることができるよう、様々な材料を用意し、小集団で選び、組み合わせることができるようにする。</p> <p>☆乾電池のつなぎ方による豆電球の明るさやモーターの回り方の違いを調べる方法について、興味・関心を持ち、進んで考えようとしている。【関心・意欲・態度】（行動分析）</p> <p>○実験方法が浮かばない児童も考えることができるようペアで考える。それでも思い付かないペアは、何の道具を使いたいかを選ばせ、教員がアイディアのヒントを出す。</p> <p>○実験道具を見ながら「何を使いたいか」「どのように使えばよりデータとしての結果を得られるか」についてペアで考え、実験方法・結果の見通し表に書く内容を協力して考え、記入する。</p> <p>○ペアのそれぞれがアドバイスを伝えられるよう、アドバイスポイントを掲示し、良い点・疑問や改善点のどちらか1つはするよう声掛けをする。</p> <p>☆乾電池のつなぎ方による豆電球の明るさやモーターの回り方の違いを調べる方法について、具体的な結果が得られるよう、方法を立案している。【技能】（行動観察・記述分析）</p> <p>○アドバイスタイムを経て、実験方法をよりよくできる工夫はないか、また他の班の方法を聞いて良いところは取り入れるなど、自分たちの実験方法を再検討する声掛けをする。</p> <p>○協力して実験方法を考えたこと、アドバイスを受けたら、他の班の実験方法を聞いたりして、考えが深まったり変わったりしたところについて聞く。</p>

○評価計画 (4-3 理科)

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象についての 知識・理解
<p>①乾電池や光電池に豆電球やモーターなどをつないだときの明るさや回り方に興味・関心をもち、進んで電気の働きを調べようとしている。</p> <p>②電池の働きを使ってものづくりをしたり、その働きを利用した物を見付けたりしようとしている。</p>	<p>①乾電池や光電池に豆電球やモーターなどをつないだときの明るさや回り方を関係付けてそれらについて予想や仮説をもち、表現している。</p> <p>②乾電池の数やつなぎ方、光電池に当てる光の強さを変えて、回路を流れる電流の強さとその働きを関係付けて考察し、自分の考えを表現している。</p>	<p>①簡易検流計などを適切に操作し、乾電池と光電池の性質を調べる実験やものづくりをしている。</p> <p>②豆電球の明るさやモーターの回り方の変化などを調べ、その過程や結果を記録している。</p>	<p>①乾電池の数やつなぎ方を変えると、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解している。</p> <p>②光電池を使ってモーターを回すことなどができることを理解している。</p>

○指導計画

第1次 かん電池のはたらき・・・・・・・・・・3時間

第2次 かん電池のつなぎ方・・・・・・・・・・4時間

第3次 光電池のはたらき・・・・・・・・・・4時間

小単元 (時数)	時数	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
第1次 かん電池のはたらき (3)	1	<ul style="list-style-type: none"> 乾電池や豆電球、モーターを使い3年生で学習した回路について復習する。 学習の最後に全員が電池の力で動く車をつくることを知り、どんな車をつくりたいか考える。 モーターカーが動く仕組みを知り、乾電池でモーターを回し気付いたことを話し合い、本単元の課題を設定する。 	<p>◆乾電池にモーターをつないだときの回り方に興味・関心をもち、進んで電気のはたらきを調べようとしている。 【関心・意欲・態度】(行動観察・発言分析・記述分析)</p> <p>○本時は3年の「豆電球に明かりを付けよう」の復習をしながら、これからの学習の意欲付けにつなげる。</p> <p>○児童一人一人が活動できるように実験材料を用意する。</p>
	2・3	<ul style="list-style-type: none"> 車を後ろに走らせるために、乾電池のつなぐ向きを変えて、モーターの回る向きを調べる。 簡易検流計の使い方を知り、簡易検流計を使って電気の流れる向きを確かめる。 	<p>◆乾電池にモーターなどをつないだときの回り方と乾電池の向きに関連付けて、表現している。【思考・表現】(発言分析・記述分析)</p> <p>◆電流には向きがあることを理解している。【知識・理解】(発言分析・記述分析)</p> <p>◆簡易検流計などを適切に操作し、電流の向きを調べている【技能】(行動分析・記録分析)</p>

第2次 乾電池 のつな ぎ方	4 ・ 5 ・ 6 (本 時) ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・より速く走る車をつくるためにはどのようにしたらよいかを考える。 ・〈課題〉と〈予想〉を立て、乾電池2つのつなげ方には様々な方法があることを知り、つなげ方を考える。 ・理科の実験方法の立て方ポイントを確認し、実験をするための方法を2人組で考え、別の班と交流する。 ・実験をペアの小集団で行い、実験結果をまとめ、考察し、発表する。 ・学級全体で結果を共有し、クラスの結論をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○乾電池の発熱や液漏れは危険なのでショート回路にならないよう確認する。 ○乾電池1個のときと比べながら実験を行う。 ◆乾電池のつなげ方を変えたときの、豆電球の明るさやモーターの回り方に興味・関心をもち、進んで電気のはたらきを調べようとしている。【関心・意欲・態度】(行動観察・発言分析) ◆乾電池のつなげ方による豆電球の明るさやモーターの回り方の違いを調べる方法について、具体的な結果が得られるよう、方法について考えている。【技能】(行動観察・記述分析) ◆乾電池の数やつなげ方を変えると、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解している。【知識・理解】(発言分析・記述分析)
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・乾電池のつなげ方と電流の大きさの関係について、簡易検流計を使って調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆乾電池の数やつなげ方を変えたときの、回路を流れる電流の大きさとそのはたらきを関係付けて考察し、自分の考えを表現している。【思考・表現】(発言分析・記述分析)
第3次 光電池 とモー ター	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・光電池を知り、光電池に光を当てた様子を見て学習課題を立てる。 ・光電池に当てる光の強さによって電流の大きさが変わること、光電池をつなぐ向きを変えることで電流の向きが変わることを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理科室でライトを使って実験を行う。 ○簡易検流計を回路にはさんで調べることにより、電流の強さの違いを数値として見られるようにする。 ○ライトでのやけどに気を付ける。 ◆光電池に当てる光の強さによって、モーターの回る速さが変わること、回路を流れる電流の大きさと関係付けて考察し、自分の考えを表現している。【思考・表現】(発言分析・記述分析) ◆光電池を光に当てると電流が流れ、モーターを回すことができることを理解している。【知識・理解】(発言分析・記述分析)
	11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことを活かして電池で動く車をつくって動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ただ電気で動く車をつくるだけでなく、今までの課題を解決した結果を活かして、車を動かす活動に挑戦できるよう、課題を設定する。 ◆今までの学習を活かして、電気の働きを利用した車づくりをしている。【技能】(行動観察)

第4学年 音楽科学習指導案

日時 7月4日(火) 第5校時
学級 第4学年3組 31名
指導者 松村 裕子

1 題材名 曲の感じを生かしてとんびの様子を表現しよう

2 題材の目標

歌詞の内容や曲想にふさわしい歌唱表現を工夫して歌うことができる。

3 題材について

本題材では、児童が「こう歌いたい」「もっとこうしたい」という思いをもち、表現に対するあこがれや学習意欲に支えられた思考力・判断力と、[共通事項](本時では強弱、フレーズのまとまり)を手掛かりに、自分の思いや意図を実現させたい。

教材「とんび」は、歌詞の表す情景と旋律の流れが一体となっているため、曲想が感じ取りやすい曲である。また、旋律の上向下降がはっきりしており、歌詞と旋律のつながりから旋律、強弱、フレーズ、反復、問いと答えを手掛かりに、様々な表現の工夫が期待できる。

特に本時で扱う第3フレーズの強弱の変化の工夫が、曲想表現のポイントとなる。そこで、飛んでいるとんびの様子を写真で見ながら情景を想像し、ゆっくり輪を描きながら飛ぶ様子や、空を高く飛んだり低く飛んだりする様子を実感できるようにする。自分のイメージの中のとんびは何羽いるのか、そのとんびの飛び方はどのように強弱を付けることによって表現できるかを考え、いろいろ歌って試してみることで思いを表現の中で実現させたい。

感覚的な感想・漠然とした意見はもつことができるが、音楽的な特徴に即した思いや意図をもつことは難しい児童が多い。そこで小集団活動を取り入れることで、友達の様々な思いと解釈に裏付けられた表現を知り、音楽と関連付けた意見を交わし、実際に表現を試しながら、共に自分たちの思いにそった表現工夫をつくり上げてほしい。

4年生は楽曲から自分の考えや思い、こんな風に表現したいという意図をもち、それを言語化したり、音楽に関わる語彙を増やしたりすることを、意識し学んでいる途中である。本題材では、気付き・考えたことを言語化だけでなく音楽そのものの中で実現させることに重きを置き、満足感を味わわせ、習得した技能を今後活用していけるようにしたい。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(音楽の目標及び研究主題より)

【心】友達との関わりの中で、互いのよさや価値を認め合い、ともに音楽をつくり上げようとする子
【心】思いや意図をもって、進んで表現しようとする子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】友達との関わりの中で、互いのよさや価値を認め合い、ともに音楽をつくり上げるようにするために
考え、伝え合う場の工夫(小集団活動の活用)

まず個人の表現に対する思いや意図をもち、全体で共有する場をもつ。その後、小集団での活動を取り入れ、一人一人が感じ取ったことをもち寄ることで互いの表現のよさや価値を共有し、よりよい表現をつくり上げることにつなげる。また歌唱に苦手意識をもつ児童も小集団であれば自然に活動に参加でき、表現意図をもつことが難しい児童も、友達とのコミュニケーションの中で楽しく学んでいけると考えた。このような経験を積むことで、表現・思考に対して抵抗感を少なくし、表現・工夫のプロセスを学ぶことで、今後の学習において知識として活用していけると考える。

【心】思いや意図をもって、表現できるようにするために

意図的な発問・言語活動

「音楽のどこからそう思ったのか。」「なぜ、そのように感じるのか。」など場面に応じた問い掛けをすることで、知覚・感受する漠然としている思いを、どのように表現に変えていくかという深い思考の実現へ促していく。理由を考えることで深く思考し、自分の言葉で表現しようとすることをねらう。

思いや意図などの可視化 ワークシート、学習ボードの工夫と活用

思いや意図を音楽表現に生かすために、まず自分の思いや意図を明確にする。漠然とした感受、思い

や意図を言語、絵、図などで可視化することにより、児童は自分の思いや意図などに気付き、その先にある音楽表現への見通しをもつことができると考える。

5 本時の学習 (2/2 時間)

(1) ねらい

強弱を手がかりにして、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする

【**思考力・判断力・表現力** **主体性** **多様な考え** 自主性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり】

(2) 展開

主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ◆評価
<p>1 前時を振り返る。</p> <p>2 「とんび」を歌う。</p>	<p>・前時に書き込んだワークシートを取り上げ、前時の学習を想起する。</p> <p>◇1、2、4段目のポイントを確認する。</p> <p>・旋律の上向下降の動きに合う強弱</p> <p>・歌詞の内容にあった抑揚</p>
<p>3 本時のめあてを知る。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">とんびが飛んでいる様子を歌って表現しよう</div>	
<p>4 歌詞の表す様子を想像し、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分について強弱表現を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>5 第3フレーズの歌い方をグループで工夫する。</p> <p style="text-align: center;">(4人の小集団活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんびの様子からイメージしたことについてグループで共有する。 ・強弱表現の工夫について、自分がなぜそう考えたかという思いや意図を友達と伝え合う。 ・それぞれが工夫した強弱で歌ってみる。 ・強弱を手がかりにグループで表現したい情景をどのように歌いたいかについて ワークシートに記入し、内容をグループ で共有する。 </div>	<p>◇何羽のとんびが飛んでいるか、どのように飛んでいるのかなど発問し、具体的な情景を想像し、それに合う表現の仕方が引き出せるようにする。</p> <p>◇何度もやり直したり、グループで多様な意見を交換したりしやすいように学習ボードを活用する。</p> <p>3段目の楽譜に強弱記号を記入したりマグネットを操作したりすることで、考えを可視化する。</p> <p>◇前時のワークシートを参考にし、活動に取り掛かりやすいようにする。</p> <p>例：「呼びかけ合っている感じがするから、1小節ごとに f p f p で歌おう」</p> <p>「とんびが鳴きながら近付いてきて、過ぎ去っていく様子を表現したいから、前半2小節はfで、後半2小節はpで歌おう」</p> <p>◇グループのイメージに近づくようにヒントや助言を与え、それを参考にして活動を展開できるようにする。</p> <p>◆歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのような強弱で歌うかについて自分の考えや願い、意図をもって表現している。</p> <p style="text-align: right;">[イー創 行動観察、演奏聴取]</p>
<p>6 グループの工夫を発表し、クラス全員で歌う。</p>	<p>◇いい点を教師がほめたり、紹介したりすることで、多様な表現のよさを知る。</p> <p>◆「とんび」の歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現で歌っている [ウー技 演奏聴取]</p>
<p>7 それぞれのよさを感じ、やってみたい(1番いいなと思った)表現工夫を選び、通して全員で歌う。</p>	<p>◇グループごとに旋律の表現の工夫が違うことを感じ取り、友達の表現の工夫のよさに気付くよう促す。</p> <p>◇必要に応じて技術面の指導を行う。</p>

題材の評価規準

	(ア)音楽への関心・意欲・態度	(イ)音楽表現の創意工夫	(ウ)音楽表現の技能
題材の評価規準	歌詞の内容や旋律の特徴に合う情景や様子を想像し、思いや意図をもって進んで表現活動に取り組もうとしている。	歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのような強弱で歌うかについて自分の考えや願い、意図をもって表現している。	「とんび」の歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現で歌っている。

題材の指導計画と評価規準 本時 2 / 2

時	○学習内容 ・ 学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価規準
1	<p>○とんびについて知る。</p> <p>○大まかな曲想をつかんで旋律を歌う。 ・ 範唱や歌詞から情景を思い浮かべる。</p> <p>○旋律の音の動きに合った強弱を工夫して歌う。 ・ 1、2、4段目の旋律の音の動きに合った強弱を工夫しながら歌う。 ・ 学習シートに強弱記号を記述する。</p> <p>○とんびの様子を想像する。 ・ ワークシートに自分が想像するとんびの様子について絵や説明をかく。</p>	<p>◇視覚教材を用意し提示することで、情景をとらえやすくし、歌詞が表す情景に興味をもたせられるようにする。</p> <p>◇旋律の音の上がり下がりに注目させ、とんびが飛ぶ様子を自然と感じながら歌えるようにする。</p> <p>◇既習の強弱記号を確認し、旋律に合ったものを選び、歌って試しながら決定していく。</p> <p>◆歌詞の内容や旋律の特徴に合う情景や様子を想像し、思いや意図をもって進んで表現活動に取り組もうとしている。 [アー関 表情観察、行動観察、発言内容]</p> <p>◇漠然ともった思いが具体的になるように声かけしながら記入させる。絵を描くことが目的にならないように、うまくかけない児童には個別に声かけをし、説明を記述したり、友達と意見を交換したりしてよいことを伝え、思いをまとめていけるように導く。</p>

・「とんび」を歌う。
○歌詞の表す様子を想像し、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分について強弱表現を工夫する。

○ 第3フレーズの歌い方をグループで工夫する。（4人の小集団活動）

- ・とんびの様子からイメージしたことについてグループで共有する。
- ・強弱表現の工夫について、自分がなぜそう考えたかという思いや意図を友達と伝え合う。
- ・それぞれが工夫した強弱で歌ってみる。
- ・強弱を手がかりにグループで表現したい情景をどのように歌いたいかについてワークシートに記入し、内容をグループで共有する。

○グループの工夫を発表し、クラス全員で歌う。

○それぞれのよさを感じ、やってみたい（1番いいなと思った）表現工夫を選び、通して全員で歌う。

◇1、2、4段目のポイントを確認する。
◇何羽のとんびが飛んでいるか、どのように飛んでいるのかなど発問し、具体的な情景を想像し、それに合う表現の仕方が引き出せるようにする。

◇3段目の楽譜に強弱記号を記入したり、操作したりしやすいように、学習ボードを活用し、考えを可視化する。

◇前時のワークシートを参考にし、活動に取りかかりやすいように例を示す。

◇グループのイメージに近づくようにヒントや助言を与え、それを参考にして活動を展開させる。

◇いい点を教師がほめたり、紹介したりすることで、多様な表現のよさを知る。

◆歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのような強弱で歌うかについて自分の考えや願い、意図をもって表現している。

[イー創 行動観察]

◇グループごとに旋律の表現の工夫が違うことを感じ取り、友達の表現の工夫のよさに気付くよう促す。

◇必要に応じて技術面の指導を行う。

◆「とんび」の歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現で歌っている。

[ウー技 演奏聴取]